

開催日時：令和元年10月28日（月）15：00～

開催場所：日立市役所 503・504 会議室

出席委員数：38名中30名

1 開 会

2 会長挨拶

○会 長： 後期基本計画の評価会議では、数値目標の進捗はおおむね順調に進んでいるという評価をさせていただいた。計画の評価をする際には、計画時の数値目標の設定が正しいのかどうかというのが常に議論になる。

この有識者会議も次の計画策定に向けて皆様から御意見をいただいているが、何がアウトカム（成果）になるのかを見極めていく作業が中心になると考える。日立市に住んでいる住民の皆さんが自分の人生を充実させ、幸せを実感できるというのが最終目標であると考えている。

3 報告事項（司会：会 長）

（1） 出会い応援に関するイベントの取組状況等について

（2） 若者の住宅取得ニーズに関するアンケート調査結果の概要

【質 疑】

○委 員： 日立市の出会い応援に関するイベントで成立したカップルは結婚につながっているか。

○委 員： 本事業の目的が男女の出会いの機会創出なので、成立したカップルの成婚状況までは把握していない。今後は、成立したカップルの成婚状況の把握方法等について、次期子ども子育て支援計画の中で検討していきたい。

○委 員： 出会い応援に関するイベントのカップル成立数が年度によって増減している理由は何か。また、イベントの内容は毎回異なるのか。

→事 務 局： 出会い応援に関するイベントについては、毎回同様のイベントではない。イベントの内容とカップル成立数の関連について、今後検証していきたい。

○委 員： 子育て世代の住宅取得ニーズアンケート調査によると、山側住宅団地について、住み替えの「検討対象外」と回答している割合が49.4%と高い数字が出ているが、これからどのような形で山側住宅団地への住み替えを進めていくのか。

→事 務 局： アンケート調査の結果から回答者の半数は検討対象の可能性があると考える。

また、「検討対象外」の理由として、山側住宅団地に関する情報が不足しているため検討していないのか、そもそも最初から検討対象外としているのか分析する必要がある。

○会 長： 「検討可能」と回答した方にはよく検討していただくとともに、「検討対象外」と回答した方には十分な情報提供を行っていくことが重要であると考えます。

4 議 事

(1) 日立市人口ビジョン改訂骨子について

- ア 基本的な考え方
- イ 人口動向分析
- ウ 将来人口の推計と分析
- エ 人口構造の変化が地域の将来に与える影響の分析・考察
- オ 市民等の意識調査結果（将来展望に必要な調査・分析）
- カ 人口の将来展望
 - (ア) 目指すべき将来の方向
 - (イ) 人口の将来展望（将来人口推計結果）

事務局より、資料に基づき、日立市の人口の将来展望等について説明した。

【質 疑】

①基本的な考え方、②人口動向分析、③将来人口の推計と分析について

○会 長： 論点を区切って議論したい。「1 基本的な考え方」から「3 将来人口の推計と分析」について、改めて確認したいところはあるか。

※意見なし

④人口構造の変化が地域の将来に与える影響の分析・考察について

○会 長： 「4 影響の分析・考察」について、お気付きの点はあるか。

○委 員： 人生100年時代であることを考えると、65歳はまだまだ高齢者とは言えず、高齢化は必ずしも暗いイメージではない。高齢化をあまりネガティブにとらえずに議論を進めていただきたい。

→事務局： 現状認識については、客観的にとらえた上で、何が課題であるかということを示唆させていただいた。高齢化が進む中でも、高齢者がいきいきと暮らせるまちを目指すという方向性を総合戦略の中で示すことができるよう検討していきたい。

○委 員： 次期総合戦略を考える上で、何を重点化するか決めるべきだと考える。有識者の中でどこに焦点を当てて施策を定めていくのか議論する時間が必要と考える。

⑤将来展望に必要な調査・分析について

○会 長： 「5 意識調査結果」について御意見はあるか。

※意見なし

⑥人口の将来展望について

○会 長： 重点化する施策を絞るべきという意見があったが、これについて御意見をお伺いしたい。

○委 員： 企業の後継者の確保や育成に向けた支援については、市外から募集するのも一つの手段ではないかと考える。また、都内で忙しく働いている人には、忙しさから解放されて働ける日立市の魅力を伝えやすいと思うので、日立市の外から人を呼び込む施策についても力を入れてはどうかと考える。

- 会 長： 次期総合戦略では市外から日立市内で働く方を誘致し、その活動が地域に良い影響を与えることにも期待したい。
- 委 員： 様々な地域で地域おこし協力隊の活用が増えているが、日立市は成功例があるにもかかわらず、地域おこし協力隊の活用に積極的でないのがもったいないと感じる。
- 会 長： 現在の日立市の地域おこし協力隊の活動状況はどうか。
- 委 員： これまで、農業による地域活性化の関係で地域おこし協力隊を2名採用し、1名はすでに市内に定住し、もう1名も市内に定住予定である。地域おこし協力隊は、農業以外にも様々な分野で活用ができるので、どのような分野で活用できるのか今後検討していきたい。
- 会 長： 御異論がなければ、地域をプロデュースする方を市外から誘致する施策に入れていただきたいと考える。
- 副 会 長： 地域おこし協力隊を誘致する前に、日立市として協力隊に何を求めるのかが明確でないと、協力隊員の活躍の目標も明確にならないと考える。
- 会 長： 「ひたらしさ」についても、市外から来た方の方がよく分かっているので、協力隊員に聞くのがいいと考える。その他の御意見はあるか。
- 委 員： これまで都内で約11年働いてきたが、日立市で働くようになり、忙しさがなくなったと感じている。自分の生活と仕事が心豊かに両立できるのは、日立市の魅力だと考える。
- 委 員： 現在、市内で勤務し、市内の賃貸住宅に住んでいる方々に対して、市内に住み続けてもらえるような「住宅」に関する施策に力を入れるのが重要だと考える。進学で転出する人は戻ってくる可能性があるが、市外に家を建ててしまえば、戻らない可能性が極めて高いので、これを防ぐべきと考える。
- 会 長： 「住宅」に関する施策を重点化することについてはいかがか。
- 事 務 局： 市外に住み、市内で働く方が多いということは昼間人口が夜間人口を上回っていることから推測される。また、若い男性の転出理由は、「就職・転職」、「転勤」が6割以上であり、「しごと」と「住まい」の確保は重要課題であると認識している。
- 会 長： 「住まい」を理由として転出された方のうち、「望んで」市外に家を建てて転出する人と「やむなく」市外に家を建てて転出する人の内訳は窓口アンケート調査で把握できるのか。
- 事 務 局： 窓口アンケート調査では「望んで」なのか「やむなく」なのかは把握できない。
- 会 長： 窓口アンケート調査の質問項目も支障のない限り、掘り下げていただきたい。このほか、転入出について御意見を伺いたい。
- 委 員： 日立市の賃貸住宅は家賃が高いと感じる。以前水戸市に住んでいたが、同じ条件でも日立市の方が5,000円程度高いと感じる。友人の中には、住みやすさや家賃の安さを求めて水戸市やひたちなか市から日立市に通う人もいる。賃貸物件の条件が改善されれば、市内に住む若者が増えるのではないか。
- 会 長： 市内に住みたいが家賃や地価が高く、やむなく市外に住んでいる方も多いのではないか。不動産関係者へのヒアリングにもあったが、空き家や遊休地の活用については、市外在住の土地の所有者に対するアプローチも重要と考える。
- 委 員： 関係者に話を伺った際には、家を購入するに当たって、「日立市の土地の値段が高い」、「もう少し土地の値段が安くなれば購入しやすい」という意見があった。
- 会 長： 社会減対策及び自然減対策について御意見を伺いたい。県外の方に日立市の魅力を聞くと桜も海も出てこない。プロモーションビデオに海の映像を使い、PRしているが、全国的な認知度は低い。

- 委員： 日立市にも魅力的な海があるので、10代、20代の方が海を魅力的に感じれば、留まる一つの要因になるのではないかと考える。
- 事務局： 若者の地元定着や移住促進のために、豊かな自然を活用したまちの魅力創出と積極的なPR戦略を方向性として挙げている。具体的な施策については、今後まとめていく予定である。
- 委員： 河原子海岸では、サーフィンの全国大会が行われており、サーファーが定住している現状もある。海水浴期間だけでなく、1年を通した海の魅力を向上させ、交流人口の拡大に取り組むことが必要であると考えます。
- 委員： 県外の方に向け、インターネットやSNSを活用したPRにより注力していただきたい。海水浴期間は海水浴場の駐車場が有料なので、子育て世代は気軽に行きづらくなるのではないかと考える。
- 会長： 良心的な料金の駐車場もあると思うが、駐車場の収益以上に日立の海の印象を悪くしている可能性もあると考えます。
- 子育て支援は、社会減及び自然減対策のどちらにも密接に関係するので、次期総合戦略の中では明確に分けない方がいいと考えます。

(2) 第2期日立市まち・ひと・しごと創生総合戦略に関する数値目標とKPIの設定について

- 事務局より、資料に基づき、第2期日立市まち・ひと・しごと創生総合戦略に関する数値目標とKPIの設定の考え方について説明した。

【質 疑】

- 会長： KPIについては、アウトプット（手段）とアウトカム（成果）を明確にし、目標達成に資するKPIを設定する必要があると考えます。
- 若者の雇用増加だけでなく、雇用に対する満足度など、もっと先のアウトカムも検討していかなければいけないと考えます。

※意見なし。

5 その他

事務局より次回日程は11月28日（木）午後3時からの予定である旨報告した。

6 閉 会

以 上